



か・じ・く
4
2020.05
杯目
FREE

今こそ知つておきたい

「がんの新常識」

日本の「妊活」不都合な真実
新型コロナウイルスと
「危機管理」

鳥大の人々

鷲見万里子
看護部外来クリニック

病院長対談

「たすくのタスク」甲本雅裕

外来クラークは私がようやく見つけた居場所

鷲見 万里子

鳥取大学医学部附属病院
看護部 外来クラーク

病院で働いているのは医師や看護師だけではない。ほとんどの患者が最初に病院の人間と顔を合わせるのが受付業務——外来クラークである。難解な医療専門用語の理解や医師、看護師とのコミュニケーション。それまで医療と無縁の世界で生きてきた女性にとって戸惑うことばかりだったという。

誰と出会うか、どんな環境にいるか、そこで何を感じるか——。巡り合わせで人生は大きく変わるものだ。

鷲見万里子もそんな一人である。

鷲見は1986年6月に島根県松江市で生まれた。高校卒業後、飲食店、美容関係などで働いた。腰が据わらなかつたのは、どれも自分にはしつくりこなかつたからだという。

「特にやりたいことがなかつたんです。人と話すことが好き、というだけで仕事を選んでいましたね」

夢なく生きてきたって感じですか、とはにかんだ。

そんな彼女が焦りだしたのは、高校卒業から10年近くが経ち、20代の後半に差し掛かってきた時期だった。

「年齢を考えたら、このままじゃいけない。いろんな人に話を聞いたり、ハローワークで職業相談したり。これまでの経験を生かすにはどうしたらいいと考えたとき、外来クラークという仕事があります

病 気にかかる、あるいは怪我をしないといふ人はいません。どんな人に敬遠したり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。そこで、医療の世界を「いかに蟹汁のように、皆さまに愛される存在でありたい」という思いを込めました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名産品、「蟹のだし(味噌)汁」にも掛けています。「知つてもらうか」→「いかに知る」→「カニジル」となりました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名産品、「蟹のだし(味噌)汁」にも掛けています。「知つてもらうか」→「いかに知る」→「カニジル」となりました。

我々が第一にこだわるのは「ファクト」です。医療に関して、不正確な情報が世の中には溢れています。短く、分かりやすい言葉は人々の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はそう簡単ではありません。分かりやすくするために、大切なものを多くそぎ落としています。ただし、医療は、科学的に証明されていることとそうでないことを完全に二分できない世界もあります。極力、ファクトをエビデンスを重んじていても、そのファクト自体がひっくり返ることもあり得る。大切なことは、愚直に取材し、なるべく確かな文献で当たり、真摯に考える——それが我々、カニジルの姿勢です。

昨今の新型コロナウイルスに関する報道で「インフォデミック」という言葉を耳にした方も多いでしょう。これは情報が感染症のように拡散する状況を指します。SNSなどの発達により、我々が手にすることの情報は爆

発的に多くなりました。その中から、いかに正確な情報を選び取ることができるか。時に生命の危機にも直結する医学では、その力が必要になります。カニジルはそのお手伝いをしていきたいとも考えています。

米子市出身の経済学者、宇沢弘文は「社会的共通資本」を「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」と定義しました。また「一人一人の人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、市民の基本的権利を最大限に維持するため不可欠な役割を果たすもの」とも書いています。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、この地域でもっとも人が集まる場所です。「すぐれた文化を展開」し、「人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持」する可能性を秘めているという意味で、まぎれもない「社会的共通資本」であると考えます。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱える問題が凝縮されている場所です。一方、人との温かい繋がり、自然など、都会にはない豊かさがある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持していくか——。先んじて未来の問題を解決できる場所なのです。

ファクト、医療、地域、この三つを柱として、カニジルは、楽天的に山陰の良さを発信していきます。

カニジル 宣言

Contents

Kanijiru vol.4

鳥大の人々

鷲見 万里子

鳥取大学医学部附属病院 看護部 外来クラーク 03

今こそ知っておきたい

「がんの新常識」

06

不妊治療大国、しかし成功率は最下位

本誌スタッフがこっそり聞いてきました

とりだい医師の秘「英語勉強術」

14

病院長が時代のキーパーソンに突撃!

16

「たすくのタスク」甲本雅裕

16

とりだい病院広報がスラスラ回答

大学病院の謎——「入院の心得・お見舞いの作法」

20

カニジルご意見箱——カニ箱

21

Tottori Breath——「新型コロナウイルスと『危機管理』」

22

トリビート——写真家 中村治が切り取る、とりだい病院の日常

23

カニジルご意見箱——カニ箱

21

トリビート——写真家 中村治が切り取る、とりだい病院の日常

21

トトロの泉である

20

トトロの泉である

20

Kanijiru Staff

スーパーバイザー 結城豊弘	編集後記——飛鳥の森より 中原 由依子 大川真紀 西海美香
編集長 田崎健太	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
副編集長 永井万葉	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
編集 中村由依子 大川真紀 西海美香	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
写真 中村治	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
表紙デザイン 三村漢	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
ページデザイン 矢倉麻祐子	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香
編集管理 吉田慎吾	トトロの泉である 中原 由依子 大川真紀 西海美香

24

よつて、ハローワークで教えられたんです」

クラークは英語で事務員を意味する。

外来クラークは、主に受付業務に担当す

る職員のことだ。

「職業訓練校で8か月間、医療事務につ

いて学びました。医事会計の点数、病院

事務に必要な知識、電子カルテの操作法

とかですね。その後、病院で実習させて

もらつた後、こここの面接を受けたんです

驚見はそういつて下を指差して笑つた。

2014年12月から、とりだい病院で

働き始めている。最初は戸惑うことばか

りだつたといふ。

「今まで（医師の）先生と話をする機会

がありませんでした。そして医療の知識

もない。先生とのコミュニケーションが

大変でした」

医師は、大学生時代から医療という専

門分野に没入して生きてきた人間たちで

ある。医療に限らず、専門性が高い分野

では内部での意思疎通に使用される共通

言語が存在する。そして長期間、その中

で生活していると、それらが外部に理解

されにくいことを忘れがちである。

「カルテなどに検査の指示が略語で書か

れているんです。簡単なところならば、

レントゲンは『X.P.』、心電図ならば『E

C.G.』。病名も横文字で書かれているん

です。受付業務自体のマニュアルはある

んです。でも、（医療に関わる）略語な

どの説明はないです。職業訓練校でも学

ばなかつた。全く指示も病名も分からな

いといふ。そういう風に、医療の現場に

が適用される。どうしても医療の現場に

驚見には全試験官が一致

して合格点をつけたといふ。

「先生、これは何ですか」と聞いてみる

と、そんなことも分からぬのかと返さ

れたり、明らかに不機嫌な顔をされるこ

ともあつた。不思議だつたのは、控えめ

だつて、自分が、そのとき怯まな

かったことだ。

「先生からしてみれば、忙しいのに何を

基本的なことを聞くんだって感じだつた

んでしよう。でもめげずに聞きましたね。

その他、看護師さんとに聞いたら、家に帰つ

てインターネットで調べたり。最初は本

当に大変でした」

とりだい病院の外来クラークは、担当

する各診療科が日によつて変わること

あります。科、麻酔科、内科、外科など、当然のこ

とだが病名、処置は全く違う。

「初診の患者さんだとどの科でも紹介状

をお持ちです。看護師さんにそのままお

任せすればいいんです。再診の場合、こ

ちらで理解しなければならないことがあります

ります。今でもぱつと見て分からぬ病

名はたくさんあります」

外来クラークは、病院の玄関口である。

ほとんどの場合、患者が最初に顔を合わせ

るのは受付にいる外来クラークだ。長く

通院している患者は、まず顔見知りの外

来クラーク、あるいは看護婦を探す。働き

始めたばかりの頃を驚見はこう振り返る。

「私は全然、声を掛けられなかつた」

患者から頼られるようになりたいと思つた驚見は、多くの資格を取得した。

「特に看護助手と外来クラークが足りない。仕事を覚えて5年が経つとやめて、他に行つてしまふ。最大5年間というの

が分かつてゐるので、募集してもなかなか

能力のある人が来ない」

労働契約法改正から5年後の2018年4月、とりだい病院は、一部のパート

タイム職員について、無期労働契約への

転換を始めている。2013年に契約を

結んだ非正規職員たちの契約期間が終了

する時期となつたからだ。

「特に看

今こそ知っておきたい

がんの新常識

がんは日本人の死因ナンバーワンを続けてきた、国民病である。ただし、医療技術の発達によって、がんは治療可能な疾患でもある。「免疫チェックポイント阻害剤」「プレシジョンメディシン」「がんゲノム医療」「遺伝性腫瘍」——。日進月歩のがん治療の「今」を正しく知ろう。

取材文・編集部 写真・中村 治

若いから細胞が活発で
がんが進行しやすい、
というのは誤解

「まず理解して欲しいことは、今や日本人の2人に1人ががんになるということ。ただ、がんにかかる方のうち、死亡率は男性で約4分の1、女性で約6分の1。がんは不治の病ではない」

と語るのは、鳥取大学医学部附属病院の血液内科教授であり、病院のがんセンター・前センター長の福田哲也である。

「がんになつた患者をどのように治療するか、どんな風に生活していくかをサポートしていくのががんセンターの役割です」

福田は、がんには誤解が多いと感じ

ている。

「がんの種類にもよりますが、消化器がん、乳がんなどは初期発見ならば治る確率はぐっと高くなる。早期のがんならば、内視鏡的な手術だけで治る方は多い」

1985年、女優の夏目雅子が血液のがんである急性骨髄性白血病により27歳で早逝したことは、多くの人の心にがんの恐ろしさを刻み込むことになった。近年、競泳選手の池江璃花子が白血病を公表したことでも記憶に新しい。

夏目や池江が罹患した、白血病——血液のがんは福田の専門分野である。

「白血病、リンパ腫というのは早期発見が難しい。ただし、早期発見でなくとも治りうる病気です。悪性リンパ腫の場合、タイプによつては半分以上が抗がん剤治療によっては半分以上が抗がん剤治療



「がんは不治の病ではない。医療へのアクセスが重要である」(福田哲也)

免疫機能を保つていれば、理論的にはがんにならない?

厚生労働省の発表した「死因順位」では1981年以降、「悪性新生物」——がんは1位を続けている。最新の調査、2018年でも、27・4%ががんで亡くなっている。日本人の国民病だと言えるだろう。ただし、この数字に囚われると、その背後にある事実を見逃してしまう。

消化器外科教授の藤原義之は「がんの一番の原因は加齢です」と言い切る。「年を取ることが一番の原因。その意味では、長生きすればがんになりやすくなる。非常に自然な病気なのです」つまり、医学の進歩によって、治療可能となる疾病が増えた。しかし、長寿化が

進み、加齢が主たる原因のがんにかかる割合が下がることはない。

そもそもがんとは何か——。

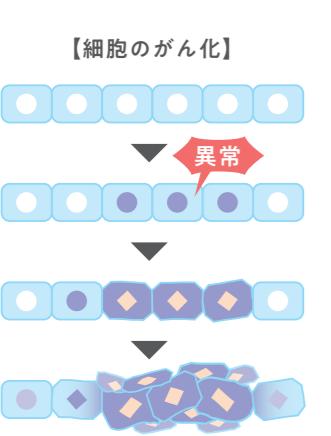
「私たちの身体を構成している細胞のは遺伝子にキズが付くこと（遺伝子変異）がんは1位を続けている。最新の調査、2018年でも、27・4%ががんで亡くなっている。日本人の国民病だと言えるだろう。ただし、この数字に囚われると、その背後にある事実を見逃してしまう。消化器外科教授の藤原義之は「がんの一番の原因は加齢です」と言い切る。「年を取ることが一番の原因。その意味では、長生きすればがんになりやすくなる。非常に自然な病気なのです」つまり、医学の進歩によって、治療可能となる疾病が増えた。しかし、長寿化が

現在の研究によると、人間の身体には1日5000個程度のがんのもとになる細胞が生まれている。ただ、体内の免疫

細胞がそのがん細胞を排除している。「細胞にキズがついたら、それを修復する機能が人間には備わっています。ところが体調を崩しているなど、免疫機能が弱くなっているときに、がん細胞が生き残り、発がんする。あるいは、がん自体が免疫機能を抑制することによって発がんする」

「私たちの身体は、異物、特に病原体から自らを守るために高度に発達した免疫システムの監視下にある。体内にある病原体などの「異物（非自己）」は、激しい攻撃の対象になり排除される。免疫機能とは、体内の「自分」と「自分でないもの」を識別して、正常に保つ働きをする生体反応である。

福田は「がんはすぐにできるものではない」という。 「がんがあつという間に大きくなつて進行がんになる、というのではないんです。遺伝子に変化が起きてから、進行がんになるまではかなり長い。5年、あるいは10年で出てくるがんはおとなしいものが多いため、前立腺がんは、ほとんどの人が持つています。おとなしいまま、寿命をまつとうすることもあります」



療で治癒が望める。悪性と聞くと怖い。ただ、治る方が多いのも事実なんですね」

20代だった夏目は病名が判明してから約7か月で亡くなつた。若いと細胞が活動なため、病気が加速するとされた。しかし、実際は違うのだと福田はいう。

「がんの種類にもよるが、高齢者で進行がゆっくりなこともあります。白血病ですと、おおむね、若いの方が治療成績がいいです。骨髄移植などの造血幹細胞移植は、高齢になると合併症のリスクが伴うため行えないというのが現状です」

病気になつた場合、どのように治療すべきか、インターネット、書籍、雑誌を参考にすることも多い。しかし、そうしておもね、若い人が治療成績がいいです。骨髄移植などの造血幹細胞移植は、高齢になると合併症のリスクが伴うため行えないというのが現状です」

「がんの種類にもよるが、高齢者で進行がゆっくりなこともあります。白血病ですと、おおむね、若い人が治療成績がいいです。骨髄移植などの造血幹細胞移植は、高齢になると合併症のリスクが伴うため行えないというのが現状です」

病気になつた場合、どのように治療すべきか、インターネット、書籍、雑誌を参考にすることも多い。しかし、そうしておもね、若い人が治療成績がいいです。骨髄移植などの造血幹細胞移植は、高齢になると合併症のリスクが伴うため行えないというのが現状です」

「患者さんが病気に対する知識を得ることは大切です。その知識の中で自分がどのような治療を選択するか。ただ、ネット上で氾濫している情報は正しいものだけではありません。病名が同じだからといって、体験談が必ずしも当てはまるところも少なくない。

「患者さんが病気に対する知識を得ることは大切です。その知識の中で自分がどのような治療を選択するか。ただ、ネット上で氾濫している情報は正しいものだけではありません。病名が同じだからといって、体験談が必ずしも当てはまるところも少なくない。」

のレベルにあると語るのは、女性診療科の谷口文紀准教授である。

「まだ妊娠成立のプロセスについては、分かっていないことも多いのですが、体外受精、顕微授精を含めて、わが国の不妊治療の技術のレベルは高いといえます。ヨーロッパでは保険が認められることもあります。日本やアメリカは保険が効かない。それにも関わらず、日本は医療施設が多く、治療実施数も世界一。しかし、体外受精による出生率はかなり低いのです」

女性の妊娠適齢期は、 「15年」しかない

原因の第一は、妊娠に関する情報不足にあると谷口は考えている。「子どもが欲しくなれば、いつでも妊娠できる」と樂観的に考えている節がある。人間はほ乳類の中でも、妊娠しにくい生物なのです。流産率も低くはありません。近年の女性の社会進出により、夫婦ともに仕事が忙しくて、妊娠しやすい日に夫が家にいないこともあります。しかし精子を凍らせる、そのあと融解しても生存率が低下してしまい、妊娠しにくくなる。そういう妊娠に関する知識が不足しているのです」



排卵や卵管、精子に問題があると体外受精となる。

何よりも、妊娠の障害となっているのは晩婚化である。厚生労働省の資料によると、2017年度の平均初婚年齢は男性が31・1歳、女性が29・4歳。女性の平均初産年齢は30・7歳と30歳を超えている。

「体外受精の成功率はおよそ2割から3割。体外受精の場合、流産の可能性は通常よりも少し高くなつて約2割。多額の費用をかけて治療しても、妊娠を得られない人がたくさんいるということです。

その原因は卵子の加齢による遺伝子レベルの異常です。残念ながら、年齢とともに卵子も精子も徐々に衰えていく」生物学的に、人間、特に女性には歴然とした妊娠適齢期がある。

「女性の卵巣に含まれる卵子の数は、思春期のときには、だいたい7万個ある。それが年齢とともにだんだん減っていく。女性が生物的に妊娠可能となるのは15歳頃から。社会的には結婚は20歳前後ぐらいいからとして35歳までの15年間ぐらいが妊娠適齢期で、長いとは言えない。38歳あたりから妊娠率が低下する

ことは分かっています。そして30歳と50歳では卵子の質が違うのです」

多産だった時代と比べて現代女性の月経回数、つまり排卵の回数は著しく増加している。それにより、ホルモン依存性疾患といわれる子宮内膜症や子宮筋腫にかかる可能性も高くなつた。これらが妊娠成立の大きな障害となることも少なくない。

谷口によると、女性が40歳を超えると、たとえ不妊治療を受けても妊娠率は約1割しかならないという。

「40歳台になると妊娠しても、病院に行かない人が多い。若いうちに気がついていれば、将来的に造精機能が低下することを防ぐことができる。15%です

から、(とりだい病院のある)米子市でも相当数、該当する人はいるはず。山陰地方で精索静脈瘤の手術をしているのは、とりだい病院と鳥取市の一つの病院だけ。しかしとりだい病院は年間10件にも満たない数です。どう考えても人口には見合はない。みんなだましまさ生活しているんでしょう。それが造精機能障害にながついていることを自覚していない」

「これらはだいたい運動している。どれか一つが悪い人は他も悪い。しかし男性が自分の精子に問題があるから調べてほしいという人は少ない。女性側の不妊治療がある程度進んで、どうも男性の側に原因があるのでないか、泌尿器科で相談したほうがいいということで初めて来院するパターンが多い」

残りの1割は精子の流れが悪い「精路障害」だ。これは幼児期、少年期に鼠径ヘルニア、脱腸の手術により精管が何らかの形で圧迫され炎症などを起こしている場合だ。

「造精機能障害のうち6割はなぜそうなつたか分からぬ。原因不明です。残りの4割弱は精索静脈瘤という病気。精巣から心臓に戻る静脈内の血液が逆流し、精巣の周りに靜脈の瘤ができてしまう状

況もあるが、年齢とともに、成功率は落ちる。45歳を過ぎて妊娠できた人も非常に稀にはいるが、残念ながら、お金をかけて、治療回数を重ねても、妊娠を得られる可能性はかなり低い」

男性は自らの「不妊原因」に目をつぶりがち

不妊治療は経済的に加えて、身体的な負担も大きい。

「体外受精の場合、毎日来院して注射をしなければならない。値段は数倍かかりますが、都市部では、毎日の注射のために受診をしないかわりに自己注射を選ぶ人も多い。10~20年くらい前は、治療に必要な注射の回数が多く、そのため、腕がひどく腫れたものです。度々の診察や、麻酔をして卵巣から卵子を探りだす採卵も必要であり、これらは女性ばかりに負担がかかる治療です。もし、男性も頻回の診察や、毎日の注射が必要ならば、男性側の意識はずいぶん変わることでショウ」

また不妊の責任は、女性に押しつけられることが少なくない。不妊治療における男性側の理解不足を嘆くのは、泌尿器科の本田正史准教授である。

妊娠は夫婦だけの問題ではない

日本の体外受精の成功率が、外国の成績よりも極端に低い原因がもう一つある。

それは夫婦以外、第三者の配偶者、つまり他人の精子、卵子を使用できないことだ。前出の谷口はこう指摘する。

「台湾で体外受精の成功率が高いのは、第三者の卵子が使えるからです。これは法律で認められています。インターネット

「そもそも、全国の夫婦・カップルの数が少なくなっている」

厚生労働省の発表によると2019年の出生数は、1899年に統計を開始して以来、過去最少の86万4千人だった。

女性の社会進出、ライフスタイルの変化、あるいは結婚するための資金的余裕がないという若年層の貧困問題などがその背景にある。貧困問題はともかく、さまざま

として何より問題なのは、不妊治療を受ける患者の数が減少傾向にあることだと谷口は言う。

「そもそも、全国の夫婦・カップルの数が少なくなっている」

厚生労働省の発表によると2019年の出生数は、1899年に統計を開始して以来、過去最少の86万4千人だった。女性の社会進出、ライフスタイルの変化、

緩やかな婚姻制度の導入、妊娠知識の啓発、コミュニケーションでの子育て、不妊治療の保険適用や公的な金銭的補助、そして新たな家族觀の形成——妊娠は我々が当事者として、社会全体で考えなければならぬ問題なのだ。

本誌スタッフがこつそり聞いてきました

よ とり大医師の 英語勉強術

取材 文・大川真紀
イラスト・矢倉 麻祐子



いきなりですが、私、編集〇は英語が大の苦手。前号、『Youは何しに「とりだい」へ?』という企画で、留学生にインタビュー。インタビュー自体は英語の得意なNさんに手伝ってもらい事なきを得ました。その場は分かったふりをしてふむふむと聞いていたつけが回ったのは、録音起こし——。辞書を引きながら、必死でやったのですが、全く終わらず。英語への苦手意識が深まるばかり。ふと気がついたのは、とりだい病院の先生たちって、当たり前のように英語を話していること。どんな風に勉強したんですかー、と3人の医師に聞いてきました!

「それはまあ、医師という職業は英語にたくさん触れる環境にありますからね」と杉田先生。あれ、待てよ。そもそも医師にとつての外国語といえばドイツ語では?

調べてみると、かつてはカルテをドイツ語で書いていたこともあつたようですが、今は患者さんに開示することも増え、國內で使われているのは、ほぼ日本語、時々英語。

実は医学の世界共通語は、英語なのです。

「医療技術の研究や開発、最新情報は、論文や学会などを通じて英語で世界に発信します。日本人医師も医学を学び、発信するためには、英語は避けて通れません。国際化の影響で、日々の診療で外国籍の方を診る機会も昔より増えています」

医師の通り道である医師免許

テイン語から発生しているものが多いため、医学用語を英語の文献で読むことを想像してください。そりや混乱しますよね（笑）。英語の知識だけでは読めず、専門用語の知識も必要なのです。ただ、英語の文構造は簡潔で分かりやすいので専門用語を覚えれば、ある程度は斜め読みで理解できるようになります」

英語の論文を読んで使えると思つた表現は、その都度メモをとり、書き言葉のストックを増やしているとのこと。

「英文を書くときの鉄則は短く明確に。単語数はできるだけ少ない方がいいです。私の場合は内科学の教科書である『ハリソン内科学』を、原著『Harrison's Principles of Internal Medicine』で読んで医学用語や表現の語彙を増やしました」

脳神経外科の黒崎雅道教授も論文執筆が英語上達に役立った

「『一〇〇編読むよりも一つ自分で書いてみろ。その方が勉強になる』と昔、大学教授に言われたのを今でも覚えています。確かに書くためには、多くの論文を読んで調べたり勉強したりする必要があるので、力になっていると思う。時には地道にやることも必要ですね」

取り入れると考えれば、英語学習のハードルはグンと下げられそう。

「でも、文法や構文など基本的なことはちゃんと負荷をかけて学ぶべきですよ。モチベーションを保てる“負荷と楽しさのバランス”を自分なりに考えるといいと思います」

黒崎先生は学生時代の夏休みを利用して一ヶ月のホームステイを経験したり、医師になりたての頃はマンツーマンの英会話教室にも通ったそうだ。

そんな先生からさらに、「こんなアドバイスもー。」

「本屋に行つて英語教材コーナーでいろんなレベルのものをチェックしてみるといいですよ。そこで自分には少し難しいと感じる教材を選んでこつこつ学習するといい。もちろん調子よく進んでばかりではないので、挫折もしますよ。でも英語の必要性を感じていればできます。リスニングも、大部分は分かるけど、ちょっと分からないところもある位の教材がちょうどいいですね。全部分かるとあまり意味をなさないし、難しそうで、もBGM化し頭に入らないで



朝の30分通勤は 大切な勉強時間

ネイティブの人に伝えるには、英語を英語らしく話すことの大切で、「ディスイズアペン」じゃなくて『This is a pen.』というイントネーションを大切にしなければならない。ですからノリやモノマネと考えて口に出してみるといいかもしません

「イング」を実践中だ。これは聞こえてきた音を即時に真似して発音する勉強法で、リスニングとスピーキングを効率的に鍛えられるとのこと。朝の30分の通勤時にを行うことを習慣化している。「それ違う人からは、『なんだ、この人は』と変な目で見られてるかもしないんですけど、気

「英語を使わざるを得ない環境に放り込まれれば、誰でもある程度は身につくでしょうが、言語は使わないと忘れててしまう。私の場合は、日本に帰国後も趣味の読書に英語を取り入れ、楽しみながら英語力をキープしました。まずは日本語で知つて、いる作品を英語版で読むだけでも効果があると思います。自分の興味のある分野であれば、本じゃなくても映画や音楽でもいいかもしませんね」

「本屋に行つて英語教材コーナーでいろんなレベルのものをチェックしてみるとといで、そこで自分には少し難しいと感じる教材を選んで二つ三つ学習するといい。もちろん調子よく進んでばかりではないので、挫折もしますよ。でも英語の必要性を感じていればできます。リングも、大部分は分かるけど、ちょっと分からぬところもある位の教材がちょうどいいですね。全部分かるとあまり意味をなさないし、難しそうで、もBGM化し頭に入らないで

黒崎先生は今も 192 時間
程度の長距離移動の車内が絶好
の勉強場所で、事前にまとめて
おいた音楽や英会話の音源を流
しつばなしにしているとのこと。
正しい発音を身につけるため
の努力は難波先生も怠らない。
「海外サイトの英語ニュースや
医学雑誌に音声機能がついてい
る場合は、聞き流しも行います。
ネイティブの人と自分の発音の
違いに気づくことも多い。そんな
单語を見つけたら、自分の中の
間違った発音を正しい発音に修
正するために、口に馴染むまで
何度も発音練習します。単語
力が上るのは嬉しいことです」
杉田先生はさらに「シャドー

「なんですか?」と訊ねてみましたが、英語を習得すればコミュニケーションの世界が広がること（杉田先生）
「『今日のベストは明日の最低限』という気持ちを持つこと」（難波先生）
「伝わらない悔しさと伝わる喜びをること」（黒崎先生）
そういうえば留学生に取材をした時も分からなりに通じ合えた時、純粋に嬉しかったことを思い出しました。この気持ちを忘れないよう、次回の英語企画を考えることにします。

医学の世界共通語は英語

取得の国家試験にも、英語問題があります。ただ、医学英語は

ト
す
ジ
ル

依怙鼠鼠と言われてもいいんです！新型コロナで公開延期となつてますが、力ニジルは一貫して錦織良成監督の映画「高津川」推し!! だって本当にいい映画なんですね。原田省病院長は観る度に泣いています。今号は錦織監督作品の『常連』甲本雅裕さんの登場です。さまざま映画、ドラマで活躍中の甲本さん。意外にもこの高津川が初主演映画。映画の魅力や仕事の姿勢、そして家族に対する想いなど、医師、俳優とそれぞれの道を歩む二人の話は弾みっぱなし。



益田の街は陽に包まれていて 東京よりずっと明るい

原田 前号の戸田菜穂さんに引き続き、映画「高津川」にご出演されている甲本さんにお会いできて光榮です。読者には、

また「高津川」かと思われるかもしれません、それでもいいんです（笑）。ぼくはこの作品を本当に気に入って、すでに4回も観ました。いい映画とは不思議なものですね。毎回発見があります。

甲本 気に入っているとき、本当にありがとうございます（笑）。撮影地となった高津川のある島根県益田市に行かれたことはありましたか？

甲本 いえ、初めてでした。島根や鳥取は岡山県民にとって近くで遠い場所で、中国山脈を挟んで山々陽、山々陰」と呼ばれています。瀬戸内海側の岡山県が山陽で、日本海側の島根県は山陰。しかし、「陰」どころか、ものすごく陽の当たっている場所だと感じましたね。それは日照時間という意味ではなく、心の中が灯るような、そんな感覚になる場所でした。

撮影期間中でも休日になると役者は自宅に帰ることが多いのですが、本当に益田は居心地がよくて、約1か月もの間、ぼくは一度も東京に帰りませんでした。

原田 相当気に入られたんですね。

甲本 あそこに居続けたいという思いが強く湧いたんですね。地方都市ですか

生まれてくる化学反応

原田 俳優としては、どちらの方がやりやすいですか？

甲本 （すぐさま反応して）僕の場合は、錦織さんのタイプです（笑）。叩かれて伸びていくのも一つの道としてあると思

うんですけど、言われないからこそ何をしたらしいのだろうと考えるのが大切になってしまいます。ただ、何も考えない俳優だと作品が怖いものになる可能性がありますね（笑）。

原田 1975年に島根医大（現・島根大学医学部）ができるまでは、とりだい病院が島根県の医療をカバーしていたんですね。産婦人科医の私も益田赤十字病院の応援に行ってました。益田は山陰にしては天気が良くて、映画中の太陽も大変美しかったですね。

甲本 フィルムに綺麗な太陽の光が見事に映っていますね。あれは実際に肉眼で見ることができますし、すごく気持ちいい光なんですよ。

原田 この対談の初回は「高津川」の監督、錦織良成さんのとを訪れました。

錦織監督はとても温かく穏やかな方ですよね。映画界には、厳しく罵声を飛ばす監督も少なくないと聞いていたので、初

強引に引っ張らなくてはならなかつた

我々の時代と比べて自主性があるとも言えそうです。役者の世界にも、世代の差みたいなものはありますか？

甲本 （腕を組んで少し考えてから）役者の世界はさまざまですね。年代は関係なく、いろんな「さまざま」が集まるか

ら一つのものができるみたいな。むちやくちや考えている人と、全く考えていない人が合わさることで面白い化学変化が起きることもありますね。抽象的な表現になってしまいますが、足並みを揃える作品を作り上げるという目的までの道のりは一つでなくともいいんです。

原田 医療の現場というのはチームで動きます。看護師や理学療法士、臨床心理士、管理栄養士など、患者さんの退院後までのケアをチームで考えなければなりません。ただ、皆が一つの方向を向いていなければならない。芝居はそうではないことが多いというのは興味深いです。ただ、「高津川」では、俳優がそれぞの動き、表現方法を瞬時に分かり合っているようにも見えました。

甲本 役者はそれぞれに台本を読み込んで役柄を理解して現場に集まります。そこから、こう思っていたはずなのにといふものが転がつていくことを楽しめるか

どうか、だと思うんですよね。カメラが回り、相手と向き合った瞬間に、こうしようと思っていた演技が不要だと気づく

こともあります。そこで捨てるかどうかで流れが変わりますよね。演技の世界では、台詞を飛ばしたり、変えたりする人がいることの面白さがあります。それに反応する人もいるし、しない人もいる。どちらも間違いではありません。

原田 正解がない世界ですね。錦織監督は、カットせずにカメラを回し続ける「長回し」という手法を高津川では多用されています。カメラが回っている間、俳優たちはジャズの即興演奏のように演技をしていると考えていますか?

甲本 映画というのはフィクションではあるのですが、フィルムに映っている時間はフィクションではない。その嘘のない時間から生まれてくる化学反応が面白い、監督はそこを肝に映画を撮っています。それが映画「高津川」なんです。

原田 「ヒロト」とは関わりたくなかった兄である元ブルーハーツの

原田 「ヒロト」には、地元を捨てて東京で弁護士をやっている誠という登場人物がいます。地元を出て都会に行つた人間は、誠に感情移入してしまう人も多いようです。甲本さんも誠と同じで、役者になるために地元を出た一人ですね。

原田 「高津川」には、地元を捨てて東京で弁護士をやっている誠という登場人物がいます。地元を出て都会に行つた人間は、誠に感情移入してしまう人も多いようです。甲本さんも誠と同じで、役者になるために地元を出た一人ですね。

と怒鳴ったんです。それまでは兄が優等生、ぼくの方がやんちゃでした。俺まで好きなことをやるなんて言つていられないなあーって思いましたよ。とりあえず、周囲の人から望まれるように歩いてきた人生かもしれません。

原田 ところで、先ほどお兄さんの話が出ました

が、お兄さんの甲本ヒロ

トさんは「ザ・ブルーハーツ」で1987年に

メジャーデビューされ、いきなり「リンダ・リンダ」が大ヒット。音楽をやるなら出て行けとおっしゃっていたお父さんはどんな反応でしたか?

甲本 それが……（苦笑）。親父が自分で経営していたクリーニング屋にザ・ブルーハーツのポスターを貼って、店頭で電話線を抜きました（笑）。大学にも行って、就職して、一応のことはやつたよなって、自分を納得させましたね。ぼくからも質問なのですが、原田先生はどうして医師になられたんですか?

原田 いえ。そうじゃないです。私の名前前、省（だすく）は、貧乏な人からお金を受け取らずにどんな人のことも快く診てくださいから、映画が終わると早々に僕は外に出て煙草を吸っていました。すると視界の片隅に兄貴の姿が入ってきて、「よつ」と声をかけられた。

原田 なんとおつしやったんですか?

甲本 「よかつた。それだけ」と言つて帰つて行きました。それがA L L O Kを意味しているのは、兄弟だから分かるんです。それで、すぐーな、マジで嬉しかったからなって思いましたね。照れくさいんですけど（笑）。

原田 年齢を重ねると、兄弟や故郷に対する考え方は変わってくるのかもしれませんね。

甲本 そうですね。50歳を過ぎてから、自分が岡山に帰るんだろうな、あそこしか知らないんだろうなって思うようになります。ぼくが生まれました。ぼくが生まれ育ったのは岡山市なので、県内では街の部類に入りますが、それで東京と比べたら圧倒的に物はない。しかし、気がついたのは親父が3年前に亡くなつたときです。様子がおかしいということで行きつ

それで医師になつたら家族も喜んでくれるかなと考えていました。甲本さんと違つて、周りの人から望まれるように歩いていい人生だと思いませんよ。

甲本 医者になったのはいい人生だと思いますよ。

お兄さんの話が出ました

が、お兄さんの甲本ヒロ

トさんは「ザ・ブルーハーツ」で1987年に

メジャーデビューされ、いきなり「リンダ・リンダ」が大ヒット。音楽をやるなら出て行けとおっしゃっていたお父さんはどんな反応でしたか?

甲本 それが……（苦笑）。親父が自分で経営していたクリーニング屋にザ・ブルーハーツのポスターを貼って、店頭で電話線を抜きました（笑）。大学にも行って、就職して、一応のことはやつたよなって、自分を納得させましたね。ぼくからも質問なのですが、原田先生はどうして医師になられたんですか?

原田 やりたいこととは、つまり芝居でやめられたんだと思いました。

甲本 そういうわけじやなかつたんですか?

原田 会社に長く勤めるつもりはなかつたんですか?

甲本 そういうわけじやなかつたんですか?

原田 会社を辞めるとき、お父さんには話されました

甲本 それが……（苦笑）。親父が自分で経営していたクリーニング屋にザ・ブルーハーツのポスターを貼って、店頭で電話線を抜きました（笑）。大学にも行って、就職して、一応のことはやつたよなって、自分を納得させましたね。ぼくからも質問なのですが、原田先生はどうして医師になられたんですか?

原田 やはり親心ですね。お父さんは甲本さんの芝居についても応援してくれましたか?

甲本 言葉にすると人には言えないような恥ずかしいことをよく言つてましたよ。

原田 「これは誰にもできません！」とべた褒めされることもありました。

原田 誤解だつたら申し訳ないのですが、



映画「高津川」

一級河川としては珍しいダムが一つも無い清流、「高津川」を舞台に、人口流出に歯止めのかからない現実の中、歌舞伎の源流ともいわれる「神楽」の伝承を継がながらも懸命に生きる人々の日常の営みを、力強く描いた力作。監督・脚本は「白い船」「RAIL WAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語」の錦織良成。

※中国地方で先行公開され、2020年4月3日（金）より全国公開を予定していた本作は、2020年4月22日（水）現在、新型コロナウイルスの影響により公開延期しています。最新情報は映画『高津川』オフィシャルサイト (<https://takatsugawa-movie.jp>)、公式SNSにてご確認ください。

俳優 甲本雅裕

1965年岡山県出身。1989年東京サンシャインボーライズに入団し、在籍中は「12人の優しい日本人」、「彦馬がゆく」、「翼」作演出三谷幸喜などに出演。1995年

劇団が充電期間に入り、活躍の場をTV、映画（2005年）、「うん、何？」（2008年）、「RAIL WAYS」（2010年）、「たたら侍」（2011年）、「津身」（2012年）、「わざお」（2016年）と出演が続々。悪役を演じれば観ているものもつらってしまう印象的な笑顔を、日常の中に存在するリアルな表現でドラマに深みを与えている。

鳥取大学医学部附属病院長 原田省

1958年兵庫県出身。鳥取大学医学部卒業、同学部産科婦人科学教室入局。英国リーズ大学、大阪大学医学部第三内科留学。2008年産科婦人科教授。2012年副病院長。

2017年鳥取大学副学長および医学部附属病院長に就任。地域とつながるトップブランド病院を目指し、診療体制の充実と人材育成に力を入れている。また、職員一人ひとりが能力を發揮できるような職場環境づくりに積極的に取り組んでいる。好きな言葉は「意志あるところに道は開ける。」

「新型コロナウイルスと『危機管理』」

新型コロナウイルスとの戦いが続く今、この原稿を書いている。おそらく今号の「カニジル」が出版され、皆さんがこれを読まれている頃には、状況は変化し落ち着いているかもしれない。そうあって欲しいと願いながら文を続けたい。

『サビエンス全史・文明の構造と人類の幸福』（河出書房新社）という世界の歴史と文明を多角的目線で紐解いた名著で知られるイスラエル人歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリ氏が新型コロナウイルスの脅威に対して口を開き、「人類はいま世界的な危機に直面している。おそらく私たちの世代で最大の危機だ」とし、ムニューション米国財務長官は「これはウイルスとの戦争だ」と強調した。

報道現場で長年取材をしてきたが、これだけ出口の見えない取材は経験が無い。デマやフェイクニュース、真偽の定かではないネット上の心無い発信が市民を混乱に陥れる。トイレットペーパーが、街中から消える。即席麺や生活物資の買い占めが横行する。マスクの不正転売。正しい知識を持たず「緊急事態宣言」や「ロックダウン」をかつての戒厳令と勘違いし身震いしている人もいる。

正しい知識と冷静な判断、危機管理の備えこそが、結局は国や生活を守り、自分や家族を守ることだということを心に留めておいて欲しい。

今日時点（4月10日現在）では、鳥取県では新型コロナウイルス感染者は確認されていない（島根県では一人）。「だから安心だ」ということは決して無い。とりだい病院では、新型コロナウイルスが中国・武漢市で猛威を振るい始めた頃から、危機管理体制の見直しや日本でも発症事例が相次いだらどうするか

など、さまざまな事案をシミュレーションし、対応を何度も議論し備えてきた。感染症の専門医を中心にしての治療体制のチェック、連絡網の徹底、医師や看護師への指導やPCR検査機器の確保、ベッド数と隔離状況、検査や病気予防への発信や広報の指差し確認など多岐にわたる。早い段階からの備えが今の安定した現状に寄与していることは間違いないと思う。しかし、油断は禁物だ。危機管理で「備えすぎ」という言葉は存在しない。

「最悪の事態を想像しながらの対処」

「危機管理」という言葉を日本に知らしめた人物で、浅間山荘事件（1972年の警察陣頭指揮や後藤田元官房長官の懷刀として知られた初代内閣安全保障室長故・佐々淳行さんの言葉を忘れられない。東日本大震災発生から一週間後。「ウエーカップ！ぶらす」（読売テレビ系土曜朝8時）の放送日。私は福島第一原発事故や津波被害をまとめる大仕事の陣頭指揮で、我を忘れそそうになつて、佐々さんは特別ゲスト。中継や生放送対応で声を荒げる私の肩を突然叩き、佐々さんが声をかけてきた。

「未曾有の大地震対応は大変だ。結城さんは、あの阪神淡路大震災でも取材しているのだろ。経験を思い出しながらも、笑顔と自信を持つて部下に接さないと駄目だ。もう一つ忘れるな。バツトを常に振りなさい。危機管理者は三振を恐れてはいけないよ」と穏やかに、しかし真剣な口調で諭された。本番15分前の迷いと異様な緊張感が自然と消えた。

人類はこれまで多くの疫病を乗り越えてきた。世紀のベストの大流行では約三千万人が亡くなつた。しかし、19世紀末、北里柴三郎によつて原因菌が突き止められ、著しくベストの感染は減つた。1918年に流行したスペイン風邪は、全世界で約六億人が罹患。四千万人以上の命を奪つたが人類は乗り越えた。天然痘は死亡率30パーセントに達する感染力の強い恐ろしい病気だったが、1980年、WHO（世界保健機関）から世界根絶宣言が出た。冒頭に紹介したハラリ氏は新型コロナウイルスの対応に「自國を優先し各国との協力を拒む道を歩むか、グローバルに結束するのか、二つの選択を迫られている」と指摘する。選択を間違えれば更なる棘の道が待ち受けている。冷静な判断、英知、他者への思いやりと優しさ、そして正しい情報を見る目を養うことが新型コロナウイルスの猛威に打ち勝つ、大切な処方箋なのだ。



結城豊弘

讀賣テレビ放送株式会社
報道局兼制作局 チーフプロデューサー

鳥取県境港市出身。駒澤大学法学部を卒業後、読売テレビに入社。アナウンサーを経て番組制作に転じ、『ザ・ワイド』ディレクターとして「オウム真理教問題」の報道や『情報ライブミヤネ屋』の制作などを経験し、現在は『そこまで言って委員会NP』を担当。共著に『地方創生の眞実』（中央公論新社）。鳥取県東京本部戦略アドバイザーであり、鳥取大学医学部附属病院特別顧問を務める。

飛鳥の森
Hachio no mori

カニジル編集後記

新型コロナに右往左往させられる日々が続いています。

カニジルの校了作業——「仕上げ」は、ぼくと結城スーパー・バイザー、永井副編が東京と大阪から米子入り、とりだい広報チームと合流して、とりだい病院の会議室で行なつきました。校了では事実確認の他、原稿の方向についての議論も起こります。だからこそ、顔を合わせて、自由闊達な空氣の中でやらねばならないのです。

今号に関しては緊急事態宣言を受けた、東京＝米子の二拠点をつないでのリモート校了。校了はぎりぎりまで良い原稿にするための粘りが大切。それをオンラインでやるのは初めての試みでした。

現在ぼくは5月発売の「スポーツアイデンティティ——どのスポーツを選ぶかで人生は決まる」（太田出版）という著者の校了に取りかかっています。日本全国で少なくない書店が開店自粛中。心血注いで書き上げた本が書店棚に並ばないという最悪の事態も想定しなければならなくなりました。

ただ、こうも思うのです。結果として新型コロナは、社会と働き方の変化を後押ししている。デジタル化、リモートワーク、SNSの活用、家族と医療の重要性——。人生の優先順位を考える時間を与えられたのだと前向きに受けとめなければならぬ、と。

編集長 田崎健太

副編集長 永井万葉

カニジル4杯目、味わい尽くしていただけましたでしょうか。発行から1年が経ち、当初はキーワード検索してもカニジル＝カニ汁の変換間違いのような結果でしたが、今ではしっかり本誌「カニジル」にヒットするようになり、関連ワードにもとりだい病院関連の言葉がズラリと並ぶように。画像検索でもしっかりとカバー画像や編集スタッフのドヤ顔画像にヒットします（笑）。最初はインパクトのありすぎるネーミングに病院内外から「カニジル？」と聞き返されました。定着してきて味わいも増して、次の一杯も楽しみです。

表紙アートディレクション 三村 漢

カニジルは、毎号少数精鋭のチームで製作しています。仕事上、いままでチームプレイを数多くこなしてきたが、その中でもカニジルチームは、その関係性がとても良いと日々感じます。個々のプロフェッショナルとしての役割分担と、全員がフラットに意見を言い合える空間が存在していて、そのやりとりの積み重ねが、より内容を面白く深くしていると実感します。今後、さらに濃くなっていくだろうカニの出汁をお楽しみに！

ページデザイン 矢倉 麻祐子

4杯目のカニジルが無事にみなさんの手元に届いたことがとても嬉しいです。今回はがん＆妊活特集、ヘビーな内容の2本立てです。知ってる人も知らない人も知識のアップデートになると思います。おうち時間のおともに、ゆったり読んでいただけると嬉しいです。そして、今回から新しく「カニ箱」ができました！ 読んだ感想、ご意見、質問、ぜひお寄せください。次号が出る頃にはもう少し世界が落ち着いていることを祈ります。

編集 中原 由依子

今回は「妊活」の取材をしました。晩婚化で妊娠・出産が遅くなるのは仕方のないこと。いろいろな問題が絡んでいて、産み育てることが本当に難しい社会（時代）になっているのだなと感じました。谷口先生や本田先生からは、女性にとって辛い事実も聞きましたが、同時に男性女性どちらにも知つてほしいと思いました。「妊活」は、誰もが当事者だという認識を持っていただきたい。そして妊娠に関する様々な知識を、男女ともぜひ早いうちから知り、将来の「家族を持つ喜び」につながってほしいと思います。

編集 大川真紀

前号の留学生取材の経験から、今回の英語勉強法の企画が生まれました。取材にご協力いただいた先生方も、挫折を繰り返しながら英語を習得されているとのこと。勝手に親近感を抱いています。でも私のように挫折したままではいつまでも変わらない。外出自粛のおこもり期間を活用して、もう一度頑張ってみようと思っております。

編集 西海美香

コロナ感染症拡大で世界が揺れている。医療機関に勤めてはいるが、医療スタッフではない私たち。「こんな時、私たちは何をすべきなんだろう」常に付きまとっているのだけれど、こういった事態になって増え考えるようになった。原稿に向かいつながら「これ今必要な情報？」院内ギャラリーで展示作業をしながら「こんなことしている場合か？」そんな言葉が浮かんではその度に打ち消し、繰り返してやるべきことをやる。こんな時だからこそ。Please stay home and taste Kanijiru.

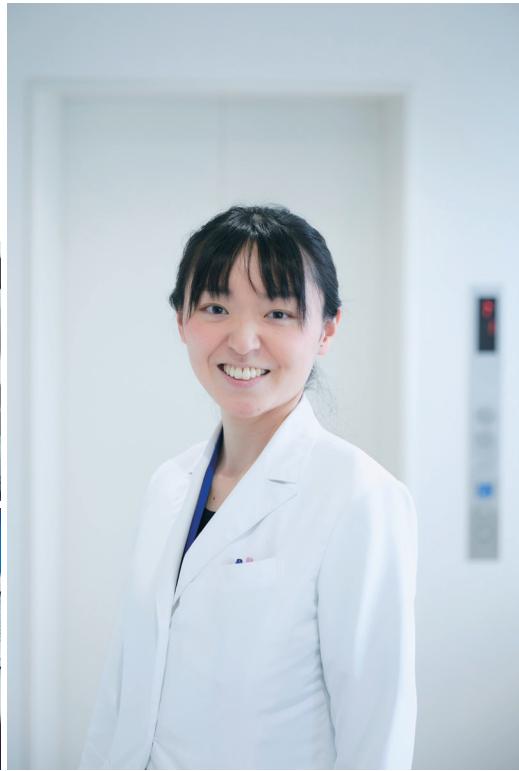


〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地一
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略セクター内「カニジル」編集部
TEL 0809-381-7039 / FAX 0809-380-6992
MAIL byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp

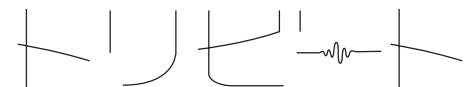
check!

とりだい情報
日々発信中！

@TotoridaiHospital
www.facebook.com/TotoridaiHospital/



フォトグラファー 中村 治が切り取る、
とりだい病院の日常



中村 治

1971年広島生まれ。成蹊大学文学部を卒業後、中国北京に2年間留学。ロイター通信社北京支局の現地通訳としてキャリアをスタート。ポートレート撮影の第一人者である坂田 栄一郎氏に師事。2006年に独立、現在は雑誌広告等のポートレート撮影を中心に活動している。中国福建省の山間部に点在する客家土楼とそこに暮らす人々を撮影した写真集『HOME』(リトルマンブックス)が好評発売中。

